学位被授与者氏名	古賀　秀菜（こが　しゅうな）
論文題目	子どもの視点を取り入れた都市公園のあり方 ―Park-PFI を活用した事例を対象に―
論文審査結果の要旨	本研究の対象である、こどもの遊び場は、近年の少子化、自治体の財政難などを背景に減少傾向にあるが、一方で、子ども基本法などによりこどもの遊びの重要性が指摘されていることから、研究の位置づけ、問題意識は優れており、また時宜を得た研究であると評価できる。また、都市公園におけるこどもの遊び場の実態について把握した研究はなく、研究の新規性も有している。都市公園におけるこどもの遊び場の実態を把握するために近年増加傾向にある Park-PFI を活用した都市公園を対象として研究を進め、その実態について緻密に分析考察しており、その結果の信頼性は高い。さらに、対象とした公園を類型化したうえで、子どもの遊び場について特徴的な整備を行った 2 事例について詳細なケーススタディを行っており、その結果は今後整備される、こどもの遊び場の整備、維持、活用について有益な知見を有している。 2025 年 2 月 13 日に、北九州市立大学北方キャンパス厚生会館カンファレンスルームにおいて、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(人間関係学)として十分な内容であると判定した。